入選（低学年の部）

じゅ文

兵庫県　姫路市立高浜小学校 三年

山本 幹人（やまもと みきと）

ぼくには、お兄ちゃんが一人います。顔が細長くて、家族の中で一番せが高いです。来月20才になります。

お兄ちゃんは、自えいかんです。ぼくが三才の時に、横すかにある自えいたいの学校に行きました。遠い所にいてなかなか会えませんでした。今は、おか山県に住んでいるので、ときどき帰ってきます。

お母さんから聞いた話をしょうかいします。ぼくがお母さんのお中の中にいた時、お兄ちゃんが毎日お母さんのお中にじゅ文をとなえていたそうです。お兄ちゃんが、

「お兄ちゃんをすきになれ～。」

「お兄ちゃんを一番すきになれ～。」

と、じゅ文をとなえていたそうです。だからぼくは生まれた時からお兄ちゃんのことが大すきになりました。いつも、お兄ちゃんのあとをついていたそうです。お兄ちゃんが学校に行く時は、げんかんで、

「ウエーン。」

「ホギャ～。」

と大なきしていたそうです。

お兄ちゃんが横すかの学校に行った時は、さみしかったので、お兄ちゃんのまくらやふくをだっこしてねていました。だけど、家に帰ってきた時は、ぜったい一番さいしょにぼくをギュッとだきしめてくれます。ぼくは、お兄ちゃんがだきしめてくれて、とてもうれしいです。ずっと家にいてくれたらいいなと思います。だから、新幹線で、いつも見送る時は、新幹線のホームで大なきしていて、お母さんが、ぼくをなきやませるために、えきそばを食べさせてくれました。今でも、仕事が休みになると、おか山県からときどき帰ってきてくれるけど、お兄ちゃんがおか山県にもどる時は、大なきします。でも今は、えきそばを食べなくても、大なきするけど、すぐになきやみます。

お兄ちゃんのじゅ文のおかげで、お兄ちゃんをすきになりました。こんど、お兄ちゃんが帰ってきたら、ねている時に、

「幹人をすきになれ～。」

「幹人を一番すきになれ～。」

とじゅ文をとなえたいです。

お兄ちゃんじゅ文をとなえてくれてありがとう。これからも大すきです。